

千葉県内で現存する最も古い煉瓦造りの水門

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第053号
名称(型式等)	小山樋門
所在地	千葉県松戸市小山地先
設立(竣工)年	明治31(1898)年

選定理由

小山樋門は、松戸市街を流れる坂川に架かるレンガ造のアーチ橋です。延長 15.4 km の 1 級河川である坂川は、西の江戸川と東の下総台地に挟まれた低湿地を流れ、南で江戸川に合流しています。大雨が降ると江戸川からの逆流で川があふれて大きな被害をもたらしたので、かつては逆川ともよばれました。

明治 31 (1898) 年、江戸川からの逆流防止のため、当時の金額で 7100 余円を投じて既存の樋管を改築し、3 連アーチレンガ造の小山樋門を建設しました。樋管、樋門とは、河川を横断し設けられる制水施設で、堤防の中に水路が埋設されているものを指します。

小山樋門の大きさは、河川横断方向が約 8.5m、河川縦断方向が約 13.0m、翼壁幅が約 3.5m、アーチ幅が約 1.9m、高さが約 2.4m です。翼壁にある石造銘板には、設計千葉県技手植田藤作、工事管理専任小金町長八木原五右衛門、管理者流山町長、馬橋村助役のほか、石工松戸町小山の小島作次郎と煉化石築造工東京日本橋の高橋石松の名前が記され、この 2 つの業種の地位の高さがうかがえます。レンガの積み方は、小口を見せる段と長手を見せる段を交互に積み上げるイギリス積みです。

レンガ造の水門は、近世の木や竹で造られた水門から現代の鉄筋コンクリートの水門へ移行する技術の中継を果たした河川構造物と位置付けられます。小山樋門は、千葉県内で現存するレンガ造水門の中で最も古く、明治のレンガ技術を今に伝える歴史的価値のある建造物です。現在は水門の機能はなくなりましたが、上部を県道 5 号松戸野田線が通り、坂川を渡る道路橋（小山樋門橋）として利用されています。平成 15 (2003) 年からは“水辺の憩いの場”として坂川の河川再生事業による周辺の整備が進められています。平成 28 (2016) 年度には、公益財団法人土木学会選奨土木遺産に認定されました。



写真 1 : 東側



写真 2 : 西側

協力：千葉県県土整備部技術管理課、東葛土木事務所

参考資料：近代遺跡調査報告書—交通・運輸・通信業 ほか